



6
2023

三重病院

ニュースレター

news letter vol.281

- 01 小児の摂食障害ってどんな病気？〈第2弾〉
- 02 臨床研究部からのお便り〔第50回〕
- 03 5月12日は“看護の日”
1病棟のせいかつ
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
- 04 5病棟の生活のひとコマ⑨
通所支援事業のひとコマ
- 05 Healthy Camp 2023のご案内
今月のみえツウちゃん／外来からのお知らせ
- 06 病院からのお願い／外来診察のご案内

小児の摂食障害ってどんな病気？ 第2弾

前回(ニュースレター4月号)は摂食障害の中の神経性やせ症(拒食症)について説明をいたしました。

今回は「やせ願望」を認めない体重減少を来す疾患、回避・制限性食物摂取症について説明いたします。アメリカの精神医学会が定める摂食障害を示します。(図)

回避・制限性食物摂取症

(Avoidant Restrictive Food Intake Disorder略してARFID)

皆さんは、何かを食べて強い腹痛や下痢を生じ、「また食べて痛くなったら(下痢したら)嫌だな」と感じたり、食べ物がのどに詰まって怖い思いをしたことはありませんか?あるいは口の中に入った食べ物の感覚が嫌で「もうこんなもの食べたくない」と思ったり、とてもショックなことがあった後に食欲がなくなったことなど1度は経験したことがあるのではないのでしょうか?

回避・制限性食物摂取症は、食べることに對して何らかの抵抗や無気力が生じ、体重が大きく減ってしまうほどに食べられなくなってしまうような状態をいいます。拒食症のように「食べたら太る。もっとやせたい」という感覚はありません。

アメリカの精神医学会が定める摂食障害の診断基準(DSM-5)を示しますが(図1)、ARFIDといっても小児の場合体重減少やその理由は様々なためもう少し詳細に分類した基準がGOSC(図2)です。GOSCのなかの神経性やせ症や神経性過食症以外の病態を、DSM-5ではARFIDととらえるとわかりやすいかもしれません。

〔図1〕

DSM-5 アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル

食行動障害および摂食障害群

- 異食症
- 反芻症／反芻性障害
- 回避・制限性食物摂取症／回避・無制限性食物摂取障害
- 神経性やせ症／神経性無食欲症
- 神経性過食症／神経性大食症
- 過食性障害
- 他の特定される食行動障害または摂食障害
- 特定不能の食行動障害または摂食障害

〔図2〕

摂食障害と摂食困難のタイプ分類の暫定基準

- ① 神経性やせ症
 - ② 神経性過食症
 - ③ 食物回避性情緒障害 気分障害(なんだか食べない等)
 - ④ 選択的摂食 狭い範囲の嗜好食(これしか食べない等)
 - ⑤ 制限摂食 摂取量が単に少ない(小食等)
 - ⑥ 食物拒否 一時的・断続的・場面依存的に食べない(外では食べない等)
 - ⑦ 機能的嚥下障害 嚥下・窒息・嘔吐恐怖に伴い食べない(怖くて食べられない等)
 - ⑧ 広汎性拒絶症候群 食べる・飲む・歩く・話すなどの拒否(全部いや等)
 - ⑨ うつ状態による食欲低下 落ち込みによる食欲低下(食欲ない等)
- ()例を挙げる。全例に当てはまるわけではない。
Eating Disorders in Childhood and Adolescence 4th ed., Lask and Bryan-Waugh, 2013, 改変)